



ちぐさ

# CHIGUSA

戸板女子短期大学同窓会千草会

Vol.61

# 戸板女子短期大学同窓会千草会 第35回総会のご案内

皆様、ご機嫌よろしくお過ごしのことと存じます

第35回千草会総会を、下記の通り開催いたしますのでご案内申しあげます

皆様お誘い合わせの上、多くの方々のご参加をお待ちし申しあげております

同窓会千草会

会長 鈴木 静子

## 記

■日 時 平成29年6月18日（日）

受付 10：30

■総 会 総会 11：00

会務報告

懇親会 12：00

会食

アルパの演奏

アルパ奏者 塩満 友紀

(14：00終了)

■会 場 日比谷 松本楼

■会 費 8,000円

総会会費は平成29年5月26日（金）までにご送金ください

※振替用紙は綴じ込みになっております

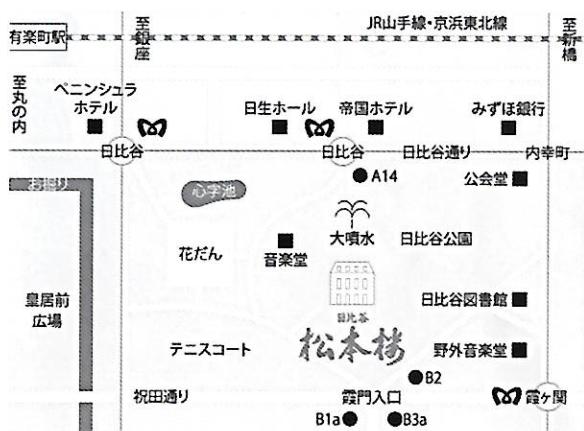
総会開催のお知らせは、この誌面をもってご案内とさせていただきます

日比谷 松本楼

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-2  
TEL 03-3503-1451（代）

アクセス

- 東京メトロ日比谷線・丸ノ内線  
「霞が関駅」B1a/B2/B3a出口
- 東京メトロ千代田線・日比谷線・都営三田線  
「日比谷駅」A14出口
- JR山手線・京浜東北線「有楽町駅」  
日比谷口



# CHIGUSA

Vol.  
61

ちぐさ

戸板女子短期大学同窓会千草会

## 目 次

表紙絵 —やさしい花籠—

被服科20回

勝 美代子

表紙 (2) 千草会総会ご案内

1 目次

会長

鈴木 靜子

2 ご挨拶

学長

小林 千春

3 115年の歴史を未来へと繋ぐために

服飾芸術科教授

朝月真次郎

4 知好楽

食物栄養科教授

大塚 譲

5 新宿中村屋と芸術家たち

食物栄養科非常勤講師

山口丕些子

6 私の歩み 母校との絆に育まれ

## 隨筆

7 三田界隈 今昔物語VOL.7  
『紅葉山』

元理事長・学長

小野 一成

## 人物紹介

8 教員生活四十年

生活科 11回

山崎 雅代

9 再出発

服飾芸術科 6回

平本 貴子

10 戸板短大から未来を描く

国際コミュニケーション学科 11回

河田 知子

## 会務報告

11 行事報告

13 会計報告

## 広がる輪

14 お便りコーナー

18 お知らせコーナー

19 支部報告 (北海道支部・宮崎県支部)・クラス会

20 戸板栄養士会だより・支部紹介

## 学園だより

21 インターンシップ・オフキャンパス

23 戸板祭・奨学生

24 哀悼

表紙 (3) 入試・広報部からのお知らせ

表紙



押し花絵 やさしい花籠

裏表紙



押し花絵 私のお気に入り

誰でも一度は落ち葉などを押し花にした思い出をおもいかと思います。自分で育てた草花を押したり、野山へ散策に出かけ採集したり、楽しみ方は様々です。何より自然と親しみ、季節を感じながら、子供から大人まで楽しめることが魅力です。自然が生み出した美しい花の色や彩りを使い、作品にする楽しみが沢山あります。

そしてそこに作者の創造力を加える事で、より一層美しさが引き立つこともあります。草花や木々は人を和ませてくれます。自然を大切にして、楽しみながら制作しています。

表紙絵の「やさしい花籠」は、シュウメイギク・チドリソウ・アストランティアなど、花籠一杯に好きなお花を飾ってみました。裏表紙絵の「私のお気に入り」には、クリスマスローズ・キャットミント・オオニゾガラムなどの大好きなお花をアレンジしました。

勝 美代子 (被20回)

作者勝美代子様は『ちぐさ』56号の人物紹介で、「押し花のある暮らし」と題してご紹介しました。



千草会会长  
鈴木 靜子

二  
挨拶

会員の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと拝察申しあげます。平素は、同窓会千草会のためにご支援・ご協力を賜りありがとうございます。

この一年も呆氣無く過ぎて行きました。私が会長職をお預かりしてもう既に十年が過ぎました。この間、何ができたのかを自問自答しておりますが、何も答えは出できません。誠に汗顏の至りです。でも会員の皆様を始め、役員の方々・事務の方に助けられ、同窓会千草会としての姿勢を崩すことなく運営されています。

二〇一六年三月を以って、辻啓介学長が退職されました。二年間一期という短い期間でしたが、学生のことは勿論、教職員の方々に何か明るい灯を点してくださつたように私には感じられます。同年四月より、国際コミュニケーション学科長の小林千春先生が推挙され、新学長になられました。新学長としての抱負は、本号三頁にお

書きくださいました。また、一五年の歴史を持つ本学の教育の理念についても、明確に文の中でおっしゃっています。女性の豊かな感性を持って、肌理細やかに本学の行く末を見詰めてくださることを期待しております。

このところ、国内外で起こる気の滅入るような事故・事件が多く、驚きと私の常識では全く理解できないことばかりですが、このような中でも母校の状況は、教職員の皆様のご奮闘で前向きに、運営されていることに感謝します。

毎年のように起きる地震・台風・豪雨・土砂崩れなどなどの恐ろしい光景を見聞きする度に、自然の脅威を思い知らされました。災害地にお住いの会員の方々も大勢おいでかと思います。さぞかし筆舌に尽きせぬ恐怖を体験されたことと存じます。心よりお見舞い申しあげます。

過日、生活科十一回卒業生で岩手県釜石市鵜住居町に住んでいた

方が、二〇一一年三月一日の東北地方の巨大地震で、ご主人と家族は皆亡くなられ、自分一人が助かり、ご苦労を重ねながらもなんとか生活していたそうですが、二年前に死因は定かではありませんが、逝去されたとの報が同級生から私の所に入りました。このような悲報が六年経つても聞こえて来る悲しさと、遺る瀬なさを感じました。地球の怒りを少しでも鎮める努力を、私共一人ひとりが些やかな事からでも、地道にやつて行かねばならないのではと思います。

第三十五回同窓会千草会の総会を、二〇一七年六月十八日(日)に日比谷松本楼で開催いたします。表紙(二)のご案内をご覧ください。旧職の先生方にもお声をかけてご参加いただき、催物もめずらしいアルパの演奏を予定しています。お一人でも多くの方のご参加を願っています。

昨年は、北海道と宮崎県で支部総会が開かれました。役員の方々のお骨折りを感謝いたします。回を重ねる度に、参加者が少なくなることに危惧の念を感じられ、その対策について考えられたご様子です。現状はいずれの支部でも高齢化が進み、後継者の育成に心をくだいております。多くの方のご参加をお願いすると同時に、卒業年度のお若い方々は、先輩方との交流もでき、いろいろな知識・技術も得られる会でもあります。思ひきつて参加してみませんか。

最近よく乗り物などで、席を譲られることが多くなりました。今はこのような時はいつも戸惑うことが多い、素直にご好意に甘えることができませんでした。ある日、四十掲みのご婦人から、「どうぞ」と声をかけられた時、「大丈夫です。ありがとうございます」と言うと、「私の方が大丈夫のようです」と言われ、恥かしい思いをし、結果として席を譲っていただきました。このような言い方の親切もあるのかと思いながら深く感謝しました。誰から見ても年齢は隠すことができなくなっている自分を意識しました。歳に不足はない私です。今できることを精一杯やることで、明日に繋げて行けたらと思っています。

学校行事には、同窓会も積極的に参加することでの交流を計り、学生と同窓生の絆を強くして、何か役に立つことができるようなど、日々考えています。どうぞ会員の皆様も是非折あれば、ご来校くださつて現在の学校の様子・学生の生活ぶりなどをご自分の目でご覧ください。そして学生の先達としての役目を意識していただきたく思っています。どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。

皆様のご健康と幸せを祈念しております。

(生活科四回)



学長 小林千春



# 一一五年の歴史を 未来へと繋ぐために

千草会の皆様には、平素から本学にご理解・ご支援をいただき感謝申しあげます。昨年四月学長職を拝命してから、早一年を過ぎようとしております。過日「私立短期大学 リーダーズセミナー」に参加し、学長としての私の職務は、

この一一五年の歴史ある戸板女子短期大学を未来へと繋ぐこと、この思いがより強固になりました。

このセミナーには、全国の短期大学の、理事長・学長が参加し、短大の置かれている厳しい現況、直面している問題・課題などを分析し共有しました。

本学は、おかげさまで教職員一丸となつての努力の結果、二年続けて定員を上回る入学生を迎えて、二十九年度入試も引き続き、多くの出願者がありました。しかしながら、十八歳人口の減少、広がる格差社会、新たな職業専門大学(仮称)の設置構想など状況はますます厳しくなります。戸板女子短期大学が未来永劫生き残るために、

本学のブランディングを再構築し選ばれる短期大学へと発展しなければならないということはいうまでもありません。

米国では、短期大学がコミュニティカレッジとして地域にしっかりと根づいています。本学もまた、創立者、戸板関子先生がこの港区に「戸板裁縫学校」を設立してから一一五年間、地域との関係を大切にしてきました。エコデザインやマスクットキャラクター制作、芝まつりへの参加、芝小学校への英語授業のボランティアなどが一例です。今年度、新たに取り組みとして、みなと区民大学・生涯学習講座の開催、「ボランティア演習」履修の学生たちによるみなと区民まつりへの参加、近隣の皆様と学生合同の『ヨガ教室』開催も行いました。私事で恐縮ですが、私も港区教育委員会の依頼で海外派遣事業に参画いたしました。他には、官学連携、PBL(Project Based Learning)の一環として、港

区の環境リサイクル支援部から三学科に課題をいただき取り組みました。限りある資源を大切に環境に優しい地域のために、学生たちは、知恵を絞り、協力しながらそれぞれの課題に挑みました。都心の短期大学として、地域にとつて揺るぎない存在になることは、本学のブランド化を推進する上で重要なことは間違ひありません。

大学のブランドは一朝一夕にで起きるものではありません。セミナーで、ある学長から戸板の卒業生が立派に活躍されているとお褒めいただきましたし、本学の素敵なかなりました。娘を見て、娘をぜひ戸板に入学させたいと言つてくださったセミナーの運営関係の方もおられました。大学のブランドとは、とりもなおさず学生たちが築くものでした。そのため、教職員は一丸となり、学生たちが築くもの、その役割を真摯にうけとめ、精一杯この職を全うする覚悟です。引き続き千草会の皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますよう切にお願い申しあげます。

私も学生たちの将来のために、戸板女子短期大学の歴史を繋ぐと、いう学長の役割を真摯にうけとめ、精一杯この職を全うする覚悟です。引き続き千草会の皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますよう切にお願い申しあげます。

められるという地道な循環によりブランドが確立していくのです。

現在、文部科学省の法令により

三つのボリシーの公表準備をして

おりますが、根幹となるのは、戸板関子先生の建学の精神です。先

生の説かれた「女性の自立」は「精

神的自立」のみならず、「経済的自立」をも示唆しており、良妻賢母

をよしとする当時の風潮の中では、先駆者的発想といえます。裁縫と

いう技芸を職につなげ、経済的自立を目指すといった実際的な考え

は、まさに二十一世紀の現代に通ずるもので、女性の働き方も多

様化し、専業主婦という言葉が廃

れようとしている現代日本社会に

おいて、本学の教育は、時代の先

端を歩んできたといえるでしょう。

服飾芸術科、食物栄養科、国際コ

ミュニケーションの三学科は、現

代、そして未来にも、必要不可欠

な三要素「ファッショントレード

英語・ITコミュニケーション」

を学ぶ学科です。学生たちが二年

間の学びを社会に還元して必ずや

戸板のブランドの担い手となると

確信しています。

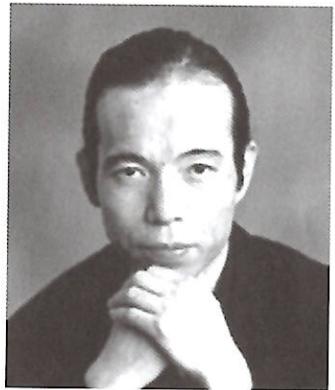
私も学生たちの将来のために、

戸板女子短期大学の歴史を繋ぐと、

いう学長の役割を真摯にうけとめ、

精一杯この職を全うする覚悟です。

引き続き千草会の皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますよう切にお願い申しあげます。



服飾藝術科教授  
朝月 真次郎

知好樂

長い時間を費やして第1回で秋原や  
調和が、崩壊の危機にさらされるような  
事例が数多く発生し、世の中は一年単位  
で激変する、誰にとつても非常に「大変  
な時代」になつてまいりました。「予測  
不能」「不透明」が世界経済のキーワード  
である現在、これから日本の消費社会  
を担う本学の学生たちに対し、私自身  
の経験や体験、失敗から学んだことなど、  
何を教え、何を伝えるかを常に自問  
自答しております。

私は大学卒業後の進路として高等学校の教員を目指していました。ファッショングに強い魅力を感じていたものの、叔父が小学校の校長だったこともあり、また当時の私は現在と全く違う人格で、内気で堅実な性格であつたため、教員になるものだと考えておりました。しかし最終的に「ファッショング」からの誘惑に屈服し、つまり感情が理性を上回り、アパレル企業に入社いたしました。私にとっては初めて「本能」を、大きさに言えば「常識」よりも「非常識」を選択したのです。

入社後の職種は営業職でメンズブランドの一担当から始まり、レディースブランドのマーケティングディザイナー、営業部長となりそのブランドの利益が会社の全利益の九割に達するようになり、会社の業績に貢献したと認められ、ご褒美に自分のメンズブランドを作つてもらつたのです。私が社会人となつた一九七二年頃の日

前は何の取り得もないね」と言われていた私に驚くべき変化をもたらしたのです。あれほど内気だった私が、仕事では社交的になり、コミュニケーション力、マーケティング力などのさまざまな力を与えてくれました。仕事が自分を成長させてくれたのだと強く認識しております。また多くの専門知識やスキル、その応用方法も仕事が教えてくれました。

ファッショントにおける私のロールモデルは、ガブリエル・シャネル（通称ココ・シャネル）です。授業では、彼女を事例として数多く取りあげておりますが、シャネルは、貧しい少女時代に預けられた修道院で、独自の美意識と縫製のスキルを身につけ、それを武器に、自分が着やすくて好きな服を作り、それは「働く女性のための服」と言われるようになり、やがてシャネルは「ファッションの女王」

本経済は、驚異的な発展を遂げている最中で、一九八〇年代半ばに絶頂期を迎えるが、一九九一年バブル崩壊により、景気は後退し本格的な不況時代が到来いたします。ファッショニ業界においては、低価格商品しか売れないと、そんな時代に二十五年間お世話になった会社を辞め、独立して自分のブランドを立ちあげました。起業して強く感じたことは、自分の「視野の狭さ」でした。自分の名前でビジネスを始めて、視点を変えて見ることの重要性、そしてそれまでは会社や組織に守られていたことに気づかされました。

想しているのです

となります。ファッショニヨン界で認められ始めた頃、シャネルはサロンへの出入りを許されるようになりますが、上流社会のレディたちにとつて彼女は洋服屋に過ぎず、サロンで話されている話題のほとんどが、彼女にはわからないものばかりであわてて教養や芸術を取り込もうとします。そんなある日シャネルは女優のパティで芸術家たちのバトロネスであるサロンの女王ミシア・セールに出会い、シャネルは、ミシアの最も熱心な生徒となり、ミシアはまだ何も知らないシャネルをかわいがり、いろいろなことを教え、社交界に案内し、彼女を取り巻く芸術家たちを紹介しました。後にシャネルは、自分の力で築いた財力をもとに自分のサロンを作り、ミシアの学校から卒業し、まるでマズローの五段階目まで駆けあがったシャネル。この有名な逸話を思い出すたび、学生たちがシャネル、私がミシアの役割を演じることになるのだと妄想しているのです。

と言われる、この二十数年間に生まれ育った現在の学生たちが満足や幸せを感じるのは「より多く」所有することではなく、人や動物、環境などが「より良い」方向へ進むことと言われております。おそらく彼女たちは、今はまだ存在しない何か新しい「価値観」を作り出していくのだと思われますが、そんな学生たちには、シャネルが求めた「教養」や「藝術」は必須の要素です。豊かな感性を土台に価値あるライフスタイルを過ごしていただきたいと願い、私自身の勉強も兼ねNPO法人を設立、ようやく五段階を目指す覚悟でございます。

最後に私事で恐縮ですが、今年はブロードウェイミュージカル「アニー」の衣装をデザイン・制作いたします。ミュージカル「アニー」は、一九七七年ブロードウェイでの初演以来ロングラン公演となり、世界各地で現地キャストによる公演も行われて、日本では三十二年間再演



服飾芸術科センター、デザイン各ゼミ学生  
とアニキキャストによる採寸会  
本学と日テレイベント事業部との产学連携



食物栄養科教授  
大塚 譲



## 新宿中村屋と芸術家たち

千草会会員の皆様、食物栄養科の大塚です。今回は会報に拙稿を掲載させていただくことになります。戸板にお世話になりようやく二年になる新人でございます。この間、多くの戸板短大の学生さんたちと楽しく過ごさせていただきしております。最近では学生から「ゆずゆず」とか「おじいちやん」と呼ばれるのにも慣れてまいりました。「じじい」と呼ばれるよりもかわいらしいこの頃です。こんなわいい学生たちに少し昔の新宿の文化と芸術を知つてもらいたくて、新宿中村屋の話を授業でしております。「月餅」とか「インドカレー」のルーツでもあるこのお店を知つてもらい、少しでも豊かな気分とおいしい御馳走を味わつてもらえたると思つて以下の文章を書きました。

さて皆さんは新宿の紀伊国屋の向いあたりにある「中村屋」に行つたことがありますか？パンやカレーで有名なそのお店の名前を私

が初めて知つたのは大学生になつて、上京して、受験勉強にもクラブ活動にも、そしてストライキにも疲れて、ちょっと一休みしていだ時に読んだ本によります。白井吉見という人が書いた『安曇野』という本が、当時大学生が一度は読んでみる本として勧められていました。高校時代の延長のようないい加減飽きたところに読み始めました。主人公は彫刻家の荻原守衛（碌山）で、彼が一時住んでいた新宿の中村屋というパン屋さんが舞台です。パン屋さんの奥さんが相馬黒光、後になつて住み着くのが画家の中村俊子さんを描いた中村屋サロンにある絵のほうが興味深いものがあります。他にも愛知県美術館などに、だんだん肌を露出するようになつていく何枚かの絵が残っています。画家と俊子の関係を暗示しています。しかし母親の黒光は、二人の仲を引き裂きます。仲を引き裂かれた俊子は、やがてインドの独立運動家ボースと結婚します。

日本の女性は今の若い方たちと違つて、西洋の女性に比べ、スタイルが見劣りをしていて六頭身だつたのです。そこで彼は跪く女性像を作りました。こうすれば足の短さが目立たないという工夫とともに、今まさに立ち上がりうとする女性を描くことに成功したのです。この像は重要文化財となり、中村屋のサロン美術館や安曇野の碌山美術館に飾られています。

荻原守衛のあと住み着いた中村彝の絵も、エロシェンコの肖像画が重要文化財です。でもその重要な文化財の絵よりも、中村屋の娘の俊子さんを描いた中村屋サロンにあります。新入生の皆さんは、新しい未来に希望を膨らませておられることがあります。皆さんには高校生の時と異なる価値観の世界にこれから踏み出されるわけで、今まで英数国の点数がいい人がいわゆるできる人だったわけですが、これからはいろいろな物差しがあることを知つて欲しいと思います。

『安曇野』を読んで芸術の世界を垣間見ることになった私は、安曇野の碌山美術館に行つたり、新宿中村屋にカレーを行つたりしてきました。数年前まではレストランに荻原守衛の彫刻『女』や、中村彝が書いた俊子の絵画が飾つてありましたが、今はサロン美術館に展示されています。

自分の人生を考えると、仕事をし、子供ができる、育てて、幼稚園の送り迎えをしてと、忙しい時代が一休みのあと来ました。ちょうど時間のある時に、芸術に触れるのも悪くはないと思ひます。新宿の中村屋のカレーはおいしいのですが、今の私にはカロリーが高く、医者の顔が気になつて楽しめません。若い時にしか食べられないこと、いやできないことを若いうちにやつておくことも戸板の学生に伝えたいことです。

四月になり新しい学期が始まりました。新入生の皆さんは、新しい未来に希望を膨らませておられることがあります。皆さんには高校生の時と異なる価値観の世界にこれから踏み出されるわけで、今まで英数国の点数がいい人がいわゆるできる人だったわけですが、これからはいろいろな物差しがあることを知つて欲しいと思います。

著書

学文社『基礎栄養学』

東京化学同人  
『人体の構造と機能』



生活科十二回  
山口 不些子



## 私の歩み 母校との絆に育まれ

私は、日本が高度成長期に入つた昭和三十七年の卒業生です。卒

業後は他大学の専攻科に進み、修了後は両親の強い要望もあって、故郷の北海道へ帰り、函館市内の病院で栄養士になりました。そこでは僅か二年余りの期間勤めただけでした。

私が生後間もなく父は太平洋戦争に徴兵され、昭和二十年に無事帰つて来た時は、私は小学校入学を目前にした五歳になつていました。それから、今までの分を取り戻すかのように、この上ない愛情を持つて育ててくれました。両親は幾つになつても側に居てほしい、と言つておりました。

ところが昭和四十年、両親の願いを余所に、当時東京のベッドタウンとして目覚ましい発展を遂げつつある八王子市に就職と結婚の縁があり、以来三十八年余り、六十歳の定年退職まで学校栄養士として勤務することになつた

のです。

昭和四十年と言えば、母校の生活科が八王子の地へ移転して來た年です。私はここで再び母校の先生方とお遇いする機会が得られました。知らない土地で、学校栄養士としてスタートをきつた私には先生方とお会いできる「戸板栄養士会」は何よりも嬉しいひとときとなり、仕事への励みになりました。

先生方の含蓄のあるお話、先輩方の力強い体験談、栄養士同士による職場の話など、仕事への責任感と愛情、人間関係の重要さなどを学ぶものは多く、同窓の誼であることに感謝と安心感がありました。現在の千草会の会長は「やさしさと思いやりは絆を強くする」と言つております。正しく私は、この先生の言葉を頼りに、心の揃え所として今日まで栄養士を続けて来られたよう思います。

私が学校栄養士になつた当時は、

八王子市の学校給食は開始間もない頃で、実に多くの問題や課題に取り組み、乗り越えようとしていた時でした。合成洗剤問題、石鹼への切り替え対応、輸入食品や環境ホルモン・遺伝子組み換え食品の研究、食品添加物の食への安全性、安全食品による手作り給食、米飯給食の実施、民間委託問題、0-1-15-7食中毒事件、アレルギー問題、そして最近は「食育」の実践など、仲間と取り組んだ仕事は沢山ありました。こうした中、私は常に研究や体験を通じて「教育の実践」ができる栄養士を目指して仕事を続けてきましたが、現役時代を振り返ってどれ程の仕事ができたか、苦しい思いがします。

さて私は、退職後素晴らしいご縁に恵まれて、母校で「給食管理実習」の授業を担当し、学生と関連づけるために、心の揃え所として今日まで栄養士を続けています。

私が学校栄養士になつた当時は、

王子から三田までの通勤時間は長く、生活時間をやり繕りしながらの教材研究にも気合が入りました。そして周りから支えていただいたやさしさや思いやりは、何にも増して有り難く、感謝の気持ちで働くことができました。これこそが同窓の誼、充実した五年間、願つてもない貴重な仕事をさせていただき、私の心の財産となつています。

そして、母校が四年制大学の検討を始めた頃、私は退職しました。退職した後は直ぐに、予てから学んでみたいと思っていた東洋思想の「薬膳」の勉強を始めました。「黒竜江中医薬大学日本校」に三年間通い、「漢方薬膳師」を修め、西洋と東洋の健康・医療に対する捉え方の大きな違いを知ることができます。

こうして現在まで、勉強や食に関わる仕事の中で、多くの人達に力をいただき、助けられてやつてきました。感謝の気持ちで一杯です。まだまだ半人前の私は、この先今までの何分の一も時間がありませんが、母校との絆を大事に思ひ、精進を重ねて行きたいと思います。

# 『紅葉山』



元理事長・学長  
小野一成

## 三田界隈 昔物語 7



図③ 紅葉館

戸板学園から見える芝増上寺の裏手の高台は、往古は古木が鬱蒼としており、「紅葉山」と呼ばれていた。その由来は、江戸時代初期、徳川二代将軍秀忠の命令により、江戸城内の楓山から多数の楓を「金地院(江戸初期創建)」の境内を中心と分けして移し植えたことが、始まりである。徳川将軍家菩提寺の一つである増上寺周辺は、明治以降、政府の命により東京府の公園となつた。

文明開化の時代となり、西洋式の広間をもつた社交場として「鹿鳴館」が明治十六年(一八八三年)に開業した。開業当初は流行ったが、社交ダンスなどが中心の欧米式の社交術が浸透せず、「欧化外交」への批判も高まり、七年で「華族会館」への払い下げを余儀なくされた。

「紅葉館」で働く「給仕」(女性従業員)は選りすぐりの美女で、かつ堅実な家庭の出身者であった。彼女たちは、行儀稽古事などを厳しく仕込まれ、「紅葉館」で働いていたということが、結婚に際しての大きな話題になると言われた。女性全員

名限定、会員権三百円、年会費十円、完全予約制という、大変贅沢なクラブ組織として発足した。「紅葉館」の会員になつたということは、政財界の中にあって、大変なステータスとされた。ホテルなどにおける西洋風の宴会に対抗して、数々の著名人による壮行会、懇親会、また外国人の接待などの集まりに使用され、三百人を超す和風大宴会は、日本式大宴会のモデルとして、広く知られるようになった。

「紅葉館」で働く「給仕」(女性従業員)は選りすぐりの美女で、かつ堅実な家庭の出身者であった。彼女たちは、行儀稽古事などを厳しく仕込まれ、「紅葉館」で働いていたということが、結婚に際しての大きな話題になると言われた。女性全員

による「縦踊り」の華麗さは、巷の噂にものぼつた。「紅葉館」の常連であつた作家尾崎紅葉(紅葉の筆名はこの「紅葉山」からとつた)は、ここで見聞したことを「金色夜叉」の原案としたといわれている。



図② 東京銘勝会 芝 紅葉館



図① 東京名所図会 芝紅葉館

# 教員生活四十年



生活科11回  
山崎 雅代

二〇〇三年の秋、京都嵐山に生活科第十一回卒業生二十数名が集い、同期会が開かれました。学生時代の二年間のお付き合い、四十年以上も時を経ているのに、すぐには昔に戻り旧姓で呼び合つてゐる。なんと心地よい時間だったでしょう。その後、奄美大島と鹿児島、北海道、那須、東京へと、鈴木静子先生もいつも一緒に一緒してください、交わりを深めました。古希を過ぎてからは、訪ね合つたり、小组赛で旅行をしたりしています。「あなたの友達は、全国にいるのね」と羨ましがられています。

私は卒業後、祖母出自の栃木で教員になりました。四十年の間には、ろう原紙と鉄筆はパソコンになり、通勤もバスと自転車がマイカーに変わりました。失敗や悔いも多くありましたが、みなさんに支えられながら感謝の日々を過ごさせていただきました。

家庭科教師として、裁縫も料理もできないのに「先生」です。一年生は、ブラウスとスカート、二年生はパジャマか浴衣、三年生はワンピースを縫います。その後、技術・家庭科になり、木工、機械、電気が男女共修の授業でした。学級担任として、運動や音楽が得意なら生徒達とバーボールをしたり、ギターを弾いて歌を歌つ

たりしたでしょう。何もできない私は「学級便り」を週一回出しました。学級での出来事や、皆に考えを分かつてほしい事、ほめる事に名前をあげて書きました。名簿にチェックしながら。どの子も一年間に何回も載りました。電車の中で「○○の父親です。学級便りは大きなサイコロにABCとアルファベットを一つずつ書いて転がることもありました。

夏休みには学級登校日があり、自分で計画、実施します。現在は、栃木市になつた岩舟町の丸木美術館分館で『原爆の図』が展示されています。自転車で四十分位かかるでしょう。まだ小学生だった息子と娘と三人で下見をし、何とか行けると判断しました。当日は、私が先頭で三十台の自転車の列。学年主任が後ろから車について来てくださいました。学校も良く許しましたが、主任も心配だつたと思ひます。全員無事帰校。

学年主任の私に、近くのスーパーでアルバイトをしている卒業生から「○中の生徒の万引き多いですよ」と言われ、早速生徒指導の先生と店長さんにお会いしました。店長曰く「店の方針で、百二十分の一の確信がなければ捕まえません」何という時代なんだ！

奮わない生徒十名位を対象に、学年で補習を始めました。運動の部は暗くなります。まず、学年の先生方と残る生徒が調理室で私の夕食を共にとり、生徒一人二名に先生一人で教えます。英語は大きなサイコロにABCとアルファベットを一つずつ書いて転がして読ませる。AとCの区別がつかない。えつ！これで効果があがるのだろうか。終わると先生方は車で生徒を家まで送る。翌日、階段の踊り場で、英語を習っていた生徒に会つたら、彼は満面の笑みで私を見ている。「ありがとうございます。嬉しかった」と、その目は言っている。良かつた。先生方の心は伝わった、と思いました。

その学校は周りの学校より学力が低く、朝の読書の時間も図鑑や絵をパラパラめくつてあるだけの生徒もいます。始業前、十～十五分で読める本を一組から四組までの教室を日替わりで読んで回る「読み聞かせ」を始めました。一年で十冊は読みます。『葉っぱのフレディ』などです。

退職後も続けています。今年で十六年目。私にとつて大きな張り合になっています。

# 再出発

服飾芸術科6回  
平本 貴子



平成二十年三月に服飾芸術科を卒業し、同年四月より着物クラブの講師をさせていただき、平成二十四年四月より同科の非常勤講師として「きもの着付け演習」を担当しております。

私は、昭和六十年に都内の某私立大学文学部を卒業後、金融機関に就職し仕事をする傍ら、着物学校に所属し、仕事と着物講師の二足のわらじを履く生活を送つておりました。三十代に入り、親族が経営する会社に転職し、その後、仕事の独立を機に十五年所属していた着物学校を退職し、以前から考えていた実用に即したカリキュラムで、プライベートレッスンを始めました。自身で、時間のコントロールができる生活になつたのをきっかけに、もう一度大学に入り、改めて勉強をしたい、着物に関しても、もっと自由に幅広く学びたいと思い、自身の思いが叶えられる学校探しが始まり、平成十八年四月戸板の服飾芸術科に入学することとなりました。

仕事との両立は、体力的にかなり大変でしたが、親子ほど年の離れた友だちと言える仲間ができたことで、学生生活がより充実したものになりました。

仲間と「ウイービングクラブ（もづくりクラブ）」を立ちあげ、

顧問の先生にご指導いただきながら、手織りの半幅帯を織つたり、羊毛フェルトのバックやマットを制作したり、伊豆に「吊るし雛作り」の合宿に行くなど課外活動も充実したものでした。

特別研究では「着尺を織る」をテーマに約四か月掛かりましたが、生糸を染めるところから機織りにまで挑戦し、一つ一つの工程の難しさを肌で感じることができ、大変貴重な経験となりました。また、この作品で、東京都の手工芸美術展で一等賞という思わぬご褒美もいただき励みになりました。

夏休みには、ヘルパー二級資格取得の講座を受講し、この実習で、介護施設の現状を知り考えさせられることが多かつたことを思い出します。

全ての授業が、これまでの学生

時代に味わつたことのない充実した楽しい日々でした。一年生の経済の講義では、レポートの準備に参考資料を色々読んでいく中で、改めて仕事を見直す機会となり、この事が新たな事業を始めるきっかけとなりました。

在学中に自身の新規事業として、保育所運営に取り組み、卒業した年の六月に開園し、現在に至ります。軌道に乗るまでは、それなりの苦労はありましたが、子どもの

いない私にとって、乳幼児と触れ合う喜びが、力になりました。運営上で、私自身が保育について勉強する必要性があると感じ、保育士資格習得の試験を受けるために、保育現場を知りたく、三年間の保育士通信課程に入学し、一から学ぶことになりました。昨年十一月で、最後の施設実習を終え、平成二十九年三月には保育士資格取得も確定となり、戸板での学びが、自身を前進させてくれる力になつていると今も感じています。

現在、前期の非常勤講師をさせていただいておりますのも、戸板での充実した日々からの継続であり、先生方に大変熱心にご指導いただきましたことが、講師をさせていただく上での心構えとなつております。

戸板で、勉学のみならず、良き人生の先輩である先生方の姿勢も学ぶことができ、また活動的な若い仲間との出逢いもあり、新たな一步を踏み出せましたことを心に刻み、今後も前向きに仕事に取組んでいきたいと思つております。

最後に、服飾芸術科で、初めての社会人入学の学生として、勉学させていただきましたこと、心より感謝しております。

# 戸板短大から未来を描く



国際コミュニケーション学科11回

河田 知子

早いもので、戸板短大を卒業し三年が経ちました。時々、短大で過ごした楽しかった日々を思い出し、温かい気持ちになります。

授業には、長い会社員生活で得られた知識とは全く別の、今まで知らなかつた知識を学ぶ楽しさがありました。久しぶりに手にする辞書や筆箱に、学生である幸せを感じ、自宅での予習や復習もとても新鮮でした。勉強って！こんなに楽しいものだつたのかと、改めて実感しました。お昼休みに教室で学友たちと取る食事、帰りの電車でのおしゃべり、皆でスカイツリーを見ながらホテルで食事をしたひと時、たくさん写真も撮りました。孫のような世代の人たちと一緒に過ごしたのに、全く違和感を感じませんでした。戸板での二年間は、本当に、本当に楽しい二年間でした。

ています。

定年からさらに一年働き、退職しました。退職後、一時はアクセ

サリーの店を駅ビルで出店していく

え、結局学校に行くことにしました。その時真っ先に考えたのは、

戸板に戻ることでした。心の深い部分に、戸板への愛着があつたと

思います。家族はみな、四年制の大学を勧めましたが、定年をいく

つか過ぎた年齢もあり、四年間通うことを言ふ時になつてゐる。

うことは自信が持てなかつたこと  
もありました。それでも、戸板を

選んだことは正解かーかと思って  
います。

戸板で、勉強の楽しさを十分に味わうことができたからこそ、卒

業後、四年制の大学へ編入し勉強を続けようという気持ちになります

した。ご指導いただいた多くの先生方のおかげであり、同じ時間を

共有したクラスメートの方々のおかげであります。こんな楽しい

ことを一年だけで終わらせてしまったことが残念で、編入を決めました。

あれから三年が経ち、今は大学

院に通う身となりました。大学院では、国際協力や国際政治を勉

強・研究しています。短大、大学

と重い鞄を抱えて、よく四年間頑張ったな、と自分でも思うのです

が、まだ今でも重い鞄を抱えて通っているのです。

仕事をしていた時は、自分が将来大学に通うことになるとは考えていませんでした。もともと、将

来を計画的にデザインする程の計画性はありません。どちらかと言ふと、その時その時でベスト又はベターだと判断した道を生きてきたように思います。

鹿島に入社したのも、何らかの必然性があつた訳ではありません。鹿島が自分に合っていたのか、鹿島で担つたいくつかの仕事が自分に合っていたのか、それは今でも分かりません。自分を仕事に合わせて行つた、という方が正解かも知れません。自分に合う仕事、向いている仕事、それを追及することとは意味のあることです。しかし与えられた仕事をきちんと成し遂げる、その責任感が次の仕事を呼び、さらに仕事の世界が広がる、自分の意外な能力に気づく、ということもあるのではないかでしょう。

今仕事をしている若い方々には、躊躇せず、様々な仕事に挑戦してほしいと思います。どのような仕事をも、やつてみれば案外うまくできるものです。なぜなら、どのような仕事も誰かがやっているのであり、誰かができる仕事が「私」にできないはずはありません。

私にとって、今は大学院を無事卒業することが最優先事項ですが、その後はどんな仕事をしようか、何を勉強しようか、この年齢になつても、あれこれ将来を思い描いています。戸板に戻つて勉強を開いたことが、未来の希望へと繋がっています。



## 一十九年度予算案作成

三月三十日 会計係で二十八年度決算

一十九年度予算案書類作成

がき・FAX・メールでご連絡ください。お電話でのご連絡は、間違いの原因にもなりますのでお控えください。

なお、同窓会事務室の開室時間・担当者は左記の通りです。

## 新幹事紹介

平成二十八年四月より新幹事になられた方を紹介いたします。新幹事の任期は、次回役員改選時〔平成三十一年三月〕までです。

### 平成二十八年三月卒業の新幹事

服飾芸術科14回 (被服科通算66回)

石田梨里子

小松原あゆみ

山林礼奈

食物栄養科15回 (生活科通算66回)

木村莉紗

須賀田茜

野村実央

国際コミュニケーション学科13回

(英文科通算67回)

久保奈々花

畠山佳奈

渡部美沙登

## 3 同窓会事務室からのお願い

昨年三月『ちぐさ』六十号を皆様のお手元にお届けしてから、住所不明者として三百二通が戻つてきました。大変残念に思っております。毎号『ちぐさ』の誌面でもお願いをしておりますが、住所変更や改姓の折には、出身科・卒業回数または卒業年・クラスなどを書いて、同窓会事務室までは

## 4 会計報告

ホームページ <http://www.toita.ac.jp/>

各三十万円を六名に、合計百八十万円を支出いたしました。

平成二十七年度の会費納入者は、学生会費四百六十七名・年会費十名・終身会費二名でした。

### ■会員会費について

平成二十七年度は、ご寄付はありませんでした。

### ■学生費について

学生費は、卒業生への記念品（学位記ホルダー）代として支出いたしました。

### ■中途退学者の千草会返還金について

成二十七年三月をもって終了しています。

### ■予備費について

予備費は、千草会専用振替用紙の印刷代として支出いたしました。

### ■平成二十八年度予算について

前年度実施いたしました奨学基金への繰入れは、平成二十八年度予算では実施いたしません。

### ■会費の納入について

会費の納入方法が昭和五十三年三月に切り替わっています。

昭和五十二年三月以前に卒業された方は、年会費（千円）あるいは終身会費（一万円）のいずれかの納入方法を選択することができます。この納入制度切り替え時以後、未納の方には、会報誌『ちぐさ』をはじめ同窓会からのご連絡が途切れています。

会費の納入をお願いいたしますとともに、ご友人にもお伝えいただければ幸いです。また年会費の方は、同封の振替用紙をご送金ください。

なお、昭和五十三年三月以降の卒業生は終身会費で納入されております。

平成二十七年度の奨学生は、三科六名でした。

## さまざまな出会いの中で

被服科三十二回 関口 麻理

戸板を卒業後すぐ八王子校舎の一般教育研究室に勤務し、主に教職課程の学生の支援をいたしました。退職後は、新潟県長岡市に住み、手芸店でインストラクターとして働きました。その後東京に戻り、再度母校で事務職として、しばらく就職関係の仕事に携わり、現在は教務部にあります。その間、多くの学生と関わって一緒に成長させていただきました。

最初に勤務した時の恩師金原ちゑ子先生より、仕事を通じて生涯教育について学びました。それがきっかけとなり、毎年目標を決めて何かにチャレンジするようになり、仕事帰りにカルチャーセンターや、大学などに通いました。

二十代の頃は、簿記・図書・手話・社交ダンスなど、趣味が多くつたのですが、再度勤務した時は、大学に編入・リカレント学校などに通い、仕事に必要な専門知識、資格を取得しました。

母校で学生と関わってきて、明るく素直でまじめな学生が多いこ

とを実感し、卒業後戸板で学んで良かったと思えるように、微力ながら応援できたらと思っております。

私自身、戸板で得た友はその後の人生でいつも隣にいて、喜怒哀樂と共にし、なくてはならない存在で、学友の大切さを感じています。

相変わらずチャレンジする精神も続いており、現在は、二年前よりランニングをしています。中学時代の友と週一回、十二km位走っていて、昨年は十kmマラソンに挑戦しました。また、ランニングを通じ、マレーシアのランニングクラブチームと親交があり、そのチームの方々が来日された折には、共に走り国際色豊かなランニングをしています。

さまざまなかなへんの中でも、支えられながら、楽しい人生を歩んでこられたことに感謝しています。

## 私と仕事

被服科三十五回 猪又 ゆかり

私は、食べる事が好きだ。そして料理も好きだ。そんな私がひょんな事から料理教室のアシスタントを勤めて早十三年。

きっかけは、息子が幼稚園の時にママ友からパン教室に誘われた事だった。つきあいで始めたものの、もともとパンが大好きで、手芸とは違う手作りの楽しさにハマり、次々に道具を揃え、ガスオーブンまで購入し、なんと師範まで取得した。その後も食への好奇心はとどまることなく、料理、お菓子、ワインなど学んだ。もちろん趣味の範囲で。

転機は、息子が中学入学前に通つた料理教室で、たまたま「スタッフ募集」記事を見たことだった。年齢不問、資格無、ただ料理好きな方とだけあった。迷つたがダメもとで応募してみたらなんと採用になつた。しかし仕事を始めてみたが、結婚以来専業主婦で十五ぶりの社会復帰、家事と仕事の両立、覚える事の多さにもう無理。辞めよう。何度も自問自答したか。

でも先生方の授業内容は耳をダメにして、食材や器具のうんちくを聞ける事、鮮やかな手際を見られ、コミュニケーションできることがこの上なく楽しい。十人先生がいれば、やり方は十通り。その中で自分のやり方を見つけるのも楽しみの一つ。授業のあつた日の

我家の食卓は、レッスン内容復習の場となる。思い返しながら音色、香など五感を使い、完成させると達成感は何物にもかえ難く、全てを無にしてくれる。

専業主婦だった私が、ふとした出会いから好きなことを仕事に活かせた幸せ。そして何よりも、夫と息子の理解とサポートがあつたからこそと感謝している。

これからもこの気持ちを忘れず、まだまだ学ぶことが多いけど、仕事の幅を広げ、成長したいと思っている。

さて、今夜は何を作ろうかな?

## 洋服と和裁

被服科五十三回 小此木 美代子

洋服が好きだった私は、短大に

入る時に洋裁クラスに入りたかったのですが、洋裁クラスは当時は大変人気があり、私にはとても無理だと思つたので、手工芸クラスを選ぶことにしました。染色や織物、和裁の授業はどれも楽しく学ぶことができましたが、浴衣、長襦袢を手で縫いあげることがあまりに大変で、二度と縫いたくないと思ったものです。

しかし、和裁の小林操子先生に声を掛けていただき、卒業後は和裁研究室の副手として六年間勤務させていただきました。二度と縫いたくないと思っていたのに、勉強し始めるに根っからの裁縫好きもあつて、見る見る和裁が好きになつていきました。「仕事は丁寧に進めること大事」と小林先生に教わり、それが今の仕事にも大きな影響をあたえています。

副手を辞めた後は、最初に勉強したかつた洋裁のことをふと思い出し、パタンナーの職業訓練校へ一年間通いました。今は一年に一度、オーダー会を開き、自分のペースで洋裁をし、インテリアブランドのお針子としての活動もしています。どちらも最後の仕上げはミシンではなく、丁寧に手縫いで仕上げています。和裁研究室での

勉強がとても役に立っています。

最初に諦めてしまつた洋裁ですが、今は充実した生活の中の一部となり、諦める前に行動してみるということも身につきました。これからも自分のやりたいことができるようになんばりたいと思つております。

## 戸板に学びつながつて

生活科二十一回 尾山 久恵

私は北海道のほぼ中央に位置する美瑛町という町で生まれ育ちました。そこから八王子までは、列車、青函連絡船、列車と乗り継いで、約十五時間程かかりました。遠かっただけです。

現在は札幌市に住み、四季を感じながら過ごしています。十年程前から北海道支部会の活動に参加させていただいています。参加される方々の行動力、積極性に常に驚きと同時に力をいただいています。

東京へは高校の修学旅行以来二度目の上京で、勿論八王子は初めて！大都会、東京のイメージとは程遠い、まだ田園風景の残る八王子郊外に校舎はありました。

学校の敷地内にある寮に入り、寝食を共にする仲間と共に、何でも見て！聞いて！体験して！学んで！の学生生活が始まりました。

何もかもが初めてのことばかりで

かなり戸惑いましたが、学生として二年間、卒業後学校に残り調理研究室で副手として仕事をさせていただいた二年間、都合四年間の台となり今につながっています。

たつた今でも、同じ学び舎で過ごした方たちと会えばあの頃にすっかり戻りおしゃべりの花を咲かせ、旧交を温めあつてしています。又、その機会にも恵まれ、とても楽し

今できることは？  
生活科四十三回 鎌田 めぐみ

「今できることは？」節目が近くに頭を過る言葉です。日々和見的とも思いますが、こうして自分自身のあり方を変えられる事を楽しんでいます。

短大を卒業して調理第一研究室の高橋リエ先生のもとで仕事をしました。退職後は子育ての暫くの間、同窓会室でお手伝いをしていました。

上の子どもが小学校に上がるころ、せつかく勉強した栄養士の仕事がしたいと思い、保育園の非常勤栄養士として勤めました。保育園では、子ども達が食べやすいよう調理するため調理師と保育士との調整や、子ども達への食育活動で、保育士と一緒に野菜の栽培をしたり、子ども達に食べ物の話をしたり、園の行事に参加した

も多くなるようみんなで努力してまいりたいと思つています。特にお若い方のご参加をお願いする次第です。

りしていました。研修に出かけて勉強することもできたり、働く時間も休みも子育て中の身にはとてもありがたい条件でした。自分の子ども達が幼い時に保育園や小学校のPTA活動にも参加したり、小学校にあがつて野球を始めた息子に週末ごとに付き合ったり、フルタイムで働いていては、なかなかできない体験をすることができました。お陰で地域でもたくさんの方々とも、繋がりを持つ事ができました。

子育て中心で仕事をしてきたため、このまま子ども達が成長して自立したときの私自身の姿がイメージできませんので、下の子が小学校を卒業の年に思いきってフルタイムで働くことにしました。現在は社員食堂の管理栄養士です。献立をたてたりもしますが、栄養士業務以外の事もたくさんあります。今までに培ってきた知識と技術だけでは足りない事ばかりで、新しい事を覚えながら身体を動かして働く事も大変です。

家族の協力無しにはできないことですが、今できることをやっている充実感が私は好きなのです。

## ひとの気持ちが動くとき

食物栄養科五回

井上 慶子

私は現在フリーランスの管理栄養士として、保健指導業務をしています。特定健診・特定保健指導は平成二十年から始まった国の一制度で、生活習慣を改善して内臓脂肪を減らすことで数値改善を図り、結果として国民の医療費増加を削減することが目的とされています。そこで管理栄養士は、対象者に對して面接や電話などで適切な支援をしていきます。悪化した数値の背景には、食習慣や運動習慣だけではなく勤務形態、家族関係、ストレスからくる飲酒や喫煙など、人それぞれの問題があります。

これからも「参加してよかったです」と思つていただけるよう、日々勉強を重ねながら一人ひとりと丁寧に向き合つていきたいと思います。

最初の難関はカナダ入国でした。入国審査がとても長く時間がかかり、ホームステイ先のお父さんが迎えに来てくれたのですが、二時間近くも待たせてしまいました。

他にも失敗があり、例えば映画が大好きだった私は、映画館でチケットを購入する時クレジットカード

初めて面談（初回面談）をする際に心掛けていることがあります。それは“いかに対象者の状況、気持ち、考えを共感できるか”そして“対象者に合った、今からでもできそうな取り組みを具体的に提案できるか”です。それが上手にいったとき、例えば面談に参加する前は、腕組しながら自分の健康についてどこか他人事だった人が、話が進むにつれ組んでいた腕はほどけ前のめりになり、それでどうしたら良いの？と自分の問題として受け止めてくれたらしめたもの。“ひとの気持ちが動くとき”は、管理栄養士の言葉のパワーにかかるっています。

英語に興味のあつた私は、いつか海外で暮らしてみたいという思いが強くありました。たまたま、どうしたら良いの？と自分の問題として受け止めてくれたらしめたもの。“ひとの気持ちが動くとき”は、管理栄養士のパワーワーキングホリデーというシステムを知りました。当時は二十五歳までという年齢制限があつたのですが、会社を五年弱で退職しカナダへ行きました。

里子と申します。卒業してから早いもので二十五年が経ちました。就職し、カナダのワーキングホリデーに参加し、帰国後再就職し、現在は結婚して二児の母となりました。

ここでは、ワーキングホリデーで行つたカナダの事を書こうと思います。

## 戸板女子短期大学 卒業生の皆様へ

英文科四十三回

竹島 由里子

私が保健指導で、対象者の方と

初めてまして、私は戸板女子短期大学英文科を卒業しました竹島由

ードを使用し、チケットは受取りました。が、カードの控えをその場に置き忘れてしまったため、他人に不正に使用され、日本円で約三十万円になりました。後日カード会社に説明をして返金して貰いましたが、返金されなかつたらどうしようと思つたものです。

失敗も多くありました。が、本当に楽しい滞在期間でした。カナダの自然、人との出会いなど、色々な経験ができたと思います。子供が社会人になつたら、また必ずカナダに行きたいと思っていきます。その時はどなたかご一緒しませんか。

祭りと盆踊り、サマー・キャンプ、六十年以上も続く地区対抗大運動会、新年には盛大に行われる賽の神（どんど焼き）行事などです。その中でも特に、賽の神行事は圧巻です。新年の無病息災を願う伝統ある行事ですが、地域の男性達が、地上十メートルくらいの高さまで竹や茅を積みあげて、点火すると瞬く間に燃えあがる様子は大変見応えがあります。

これらの地域行事には、子供から大人まで毎年沢山の人が参加し、楽しんでいます。活気ある町づくりのために、多くの人達がボランティアで地域を支え、私も多くの仲間と共にボランティア活動をしています。また、イベントだけでなく、定期的に防犯パトロールや清掃もしています。皆で支え合い、地域の安全を守ることは非常に大切だと感じます。私は、自分が暮らす地域の絆の強さを誇りに思います。

最近、地域の繋がりが希薄になります。が、私の住んでる東京郊外の地区では、地域活動が活発に行われています。

地域行事では、地元の神社のお祭りや、世代を問わず楽しめる夏

## 強い絆で繋がる 地域コミュニティ

英文科四十六回

山内 恵美子

## 東京タワーのある風景

国際コミュニケーション  
学科十回

大野 瞳

戸板女子短期大学が位置する場所、三田。その近くにある東京タワーが私のお気に入りのスポットです。私は生まれも育ちも東京ですが、一度も東京タワーを見たことがありませんでした。戸板に入学し、初めて東京タワーを見たときは「赤いな」という印象をもつただけでした。芝公園駅を利用していたので毎日、通学時に東京タワーを目にしました。東京タワーの中でアイスクリームを友達と食べたり、学校内から東京タワーを眺めたり、様々な思い出があります。友達と学校からお台場まで歩いていたので楽しかった思い出しか残っていません。そこでも東京タワーが見えていました。今思えば学生時代のパワーはすごいなと思います。学生時代の記憶は今も自然と思い出します。

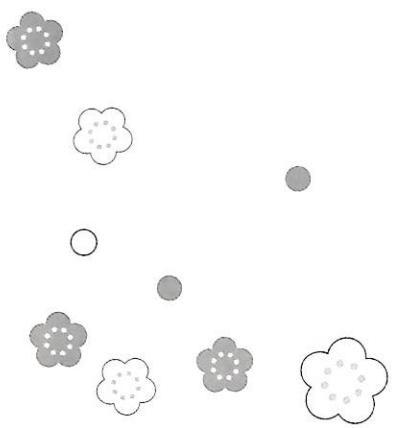
私の生まれ育つた地域でも、子供の頃は同じように多くの方々が支えてくださつたことを思い出します。感謝の念を抱きつつ、今度はこの地域にも貢献できればと思っています。

四年前に卒業し、現在も助手補として戸板に通っています。毎日、お気に入りの東京タワーを見るこ

とができるなんて、とても幸運です。当たり前の景色ですが、私は東京タワーに沢山の思い出を重ね合せることができます。嬉しいです。仕事帰りに、一人で東京タワーを眺めながら話したりしたこともあります。嬉しい時も落ち込んだ時も東京タワーは不思議と私にパワーをくれます。

初めて見た時、ただただ「赤い」と感じていた東京タワーの印象が、今では、優しく見守ってくれています。近いような、温かみのある赤い存在へと変わっています。

身近にある、東京タワー。当たり前のように見ることができます。が、そんな東京タワーを見る一日一日を大切にしたいと思います。



## 「はつらつ生きいきサロン水尻」 代表として活躍

生活科十三回 喜多 宣子



延岡市水尻町在住の喜多さんは、地区の元気印。代表を務める地域グループ「はつらつ生きいきサロン水尻」は、茶話会や手芸、防災訓練など多彩な活動をしています。延岡市内の学校栄養士として勤務。二〇〇八年から続ける民生委員の活動で「自分からは、なかなか外へ出られない人がいる」と感じ、気軽に外出するきっかけづくりとして二〇〇九年にグループを発足させました。毎月一ヶ月公民館で開催しており、平均二十人以上が参加しています。参加者の満足した声と笑顔が、喜ます。

宮崎日日新聞より

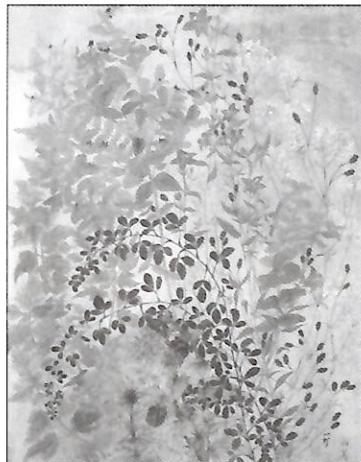
## 第五十二回都展評議員賞受賞

被服科三十一回 葛城 由美

第五十二回都展評議員賞受賞おめでとうござります。

受賞作品は、色彩も秋の趣が表れていて、繊細な筆遣いが良くわかる素晴らしい作品です。

『ちぐさ』五十三号には、表紙絵「横浜公園の春」を掲載させていただきました。



第52回都展出品「秋草薺」

## 港区内消防団ポンプ操法大会

五月二十二日（日）に芝公園で行われました港区消防団ポンプ操法大会に、芝消防団第七分団の学生消防団として、学生七名が参加しました。開会式のプラカード持ちや審査中の安全確認をする安全員、ホース収納員、応援、荷物運びを担当しました。所属している第七分団が優勝しました。



## エコプロ2016～環境とエネルギーの未来展

食物栄養科調理学研究室が、日本最大のエコロジー展である「エコプロ2016～環境とエネルギーの未来展」に十一月九日（金）十日（土）の二日間に亘り出展しました。昨年に引き続き二年連続での出展となります。

今回の出展では、給食の残食率や食品廃棄を減らすことを目的とし、実際に料理を盛りつけた食器を見ていただきながら、食器の色や絵柄がどのように食欲に影響するかについてアンケート調査（無記名）を行いました。調査結果を統計分析し、美味しく見える給食用食器として実用化を目指しています。



芝消防団第7分団  
学生消防団として参加

# 支部報告

北海道支部総会・六月二十六日（日）

札幌市 パークホテル

六月二十六日（日）札幌パークホテル  
で第十六回北海道支部総会が開催されました（近年は三年毎に開催）。曇り空でしたが、北海道各地から二十四名の方々が参加されました。

第一部の総会では開会の挨拶、大平清美支部長の挨拶・現状報告に続き、本部の山口順子副会長より学校の現状報告、新学長の紹介、そして千草会では来年度総会を予定していることなどの報告がありました。協議事項もスムーズに終了しました。

第二部の懇親会は、乾杯の後、会食をしながら和やかに懇談、途中自己紹介と近況報告もあり、年代は違つても、同じ学び舎で過ごした日々の想い出に話が尽きませんでした。アトラクションではピエロが登場、あざやかな手品やサックスの演奏で盛りあがり、更にサックスの伴奏で「青春時代」も合唱しました。

種々企画、準備してくださった委員の方々に感謝、お忙しい中参加してくださつた皆様と名残りを惜しみつつ、またの再会を約束して散会しました。

出席者  
深川 滉子（二宮） 英文14回  
佐藤 瞳子（星野） 英文16回  
相木 厚子（石崎） 英文17回  
伊勢 鉄子 被服6回  
鶯頭 悅子（荒谷） 被服10回  
長淵 節子 被服12回

呉羽 道子（田渕）	澤 百合子（塙田）	被服12回
鞠子 慧子（奈良岡）	大野 泰子（丹野）	被服13回
中野 房代（米田）	八角 正子（荒谷）	被服14回
見野ゆみ子（追永）	神原 和代（関）	被服14回
伊藤 裕子（有田）	伊藤 奎吉（井上）	被服15回
峯吉 恭子（井上）	大野 泰子（丹野）	被服15回
鈴木 公子（石川）	山田 弘子（川島）	被服16回
大谷 孝子（山本）	大谷 孝子（山本）	被服16回
武部 紗子（瀬倉）	武部 紗子（瀬倉）	被服16回
椿 瞳子（佐藤）	椿 瞳子（佐藤）	被服16回
池田 晃子（松井）	池田 晃子（松井）	被服16回
大平 清美（山下）	大平 清美（山下）	被服16回
武内 節子（瀬倉）	武内 節子（瀬倉）	被服16回
尾山 久恵（塙田）	尾山 久恵（塙田）	被服16回
本部より山口順子・田村篤子出席	生活14回	被服16回
	生活15回	被服16回
	生活16回	被服16回
	生活17回	被服16回
	生活18回	被服16回
	生活19回	被服16回
	生活20回	被服16回
	生活21回	被服16回

宮崎県支部総会・十月十六日（日）		
宮崎観光ホテル みやちく	岩切 和子（安藤）	被服13回
ぐずついた天気が続いていた宮崎の地	岩村 弘子（山本）	被服14回
は、この日もしどとと小雨が降る中、	平 経子（金丸）	被服14回
各人のお元気なご挨拶のあと、会が始ま	木戸 裕子（木戸）	被服14回
りました。初めに、支部長として長年ご	喜多 宣子（吉田）	被服14回
尽力くださった西川志づ先生を始め、亡	谷口 陽子（落合）	被服14回
くなられた会員の方々のご冥福を祈り黙	江藤 博子（佐藤）	被服14回
禱を捧げました。	中島 富子（宗）	被服14回
支部長さんの挨拶に続き校歌斉唱、会	生活13回	被服14回
務報告があり、西川志づ先生を支えつ	生活13回	被服14回
会の運営に長いこと携わられた平経子	生活13回	被服14回
出席者 本部より鈴木静子・山口順子出席	生活13回	被服14回
英 文 23回	生活13回	被服14回

様・道休雅子様ご両名に対し、感謝の意を込めた記念品が渡され、和やかな雰囲気の中で「ご苦労様でした」とあちこちで声があがりました。会の運営を任せられた江藤博子様・中島富子様ご両名から、今後の会の運営についてお話をあり、支部会は三年毎になるがその間で会員同志の集まり、茶話会のようなものでも行つて、皆様と仲良く意志の疎通を計りたい。そして、どんなに参加者が少くとも三年に一度は会を開催するので、どうぞ集まつて欲しいというお話を伺い、心強く思いました。又、若い方にもお声をかけ「同窓生ここに在り」と知らせて行きました。いとも言われ、大変うれしかつたです。

最後に、あみだくじで当たったおみやげをいただき、宮崎名産品の美味しい伊勢海老の料理・牛肉の鉄板焼きなどなど、美味しい味が口に残っている間に次会を約束して閉会となりました。

出席者  
倉迫 佳子（湯浅）  
岩切 和子（安藤）  
岩村 弘子（山本）  
平 経子（金丸）  
木戸 裕子（木戸）  
喜多 宣子（吉田）  
谷口 陽子（落合）  
江藤 博子（佐藤）  
中島 富子（宗）  
幹事 12名  
出席者 36名  
会場 平成28年度に開催が報告されたクラス会を紹介いたします。  
会場 南国酒家 原宿店  
幹事 11名  
幹事 戸塚好子・多田陽子  
会場 帝国ホテル  
幹事 16名  
会場 クルーズ・クルーズ  
出席者 36名  
会場 安藤浩子・真下初代  
会場 残念ながら高齢のため、今回の五十五回  
会場 小山内実千代・網野里加子  
会場 銀座シェ・トモ  
出席者 12名  
会場 下赤塚「ゆり」  
幹事 10名  
幹事 市川憲子・松下穂並

クラス会  
だより



# 戸板栄養士会だより

会員の皆様、お元気でご活躍のことと拝察申しあげます。日頃よりご協力を賜り、誠にありがとうございます。平成二十八年度の主な活動をご報告いたします。

## 【懇親会・セミナー】

- 平成二十八年三月五日（土）レシピ作成セミナーと会食（乃木坂「うまいぞお」グッチ裕三氏プロデュースのお店で、レシピ作成秘話などを伺いながら創作料理を堪能いたしました。）
- 平成二十八年十一月十九日（土）懇親会と会食（赤坂「Wakuya一笑美茶楼」）脇屋友詞氏オーナーシエフのお店で、中華料理でありながら大皿ではなく、銘々皿で提供される厳選素材のモダンチャイニーズスタイルのお料理をいただきました。

## 【学校行事への参加】

- 平成二十八年七月一七日（日）・三十日（土）・八月七日（日）・二十一日（日）・二十八日（日）オープニングキャンパス参加・栄養士として地域で活躍する村上律子氏（生二十一回）・島田ひとみ氏（食五回）に体験講座として、栄養士になるまでの道筋や地域活動の実際について高校生に向けてお話しいただきました。また、鈴木静子会長も両氏と共に個別相談など実施いただきました。
- 平成二十八年十月二十八日（金）・二十九日（土）戸板祭参加・毎年大好評の健康茶サービスと解説、アルコールパッヂテスト、体組成測定、食育ゼミナールの学生とのコラボレーションなどを実施し、また、栄養士会会員が各現場で実践している食育情報についての展示などを行いました。

## 【幹事会】

- 第一回 八月七日（日）平成二十八年度年間行事計画について
- 第二回 一月二十一日（土）総会・講演会について、セミナー・懇親会について、今後の戸板栄養士会のあり方・運営について

## 【総会・講演会】

- 平成二十九年一月二十一日（土）平成二十八年度戸板栄養士会総会を開催し、併せて講演会を行いました。第一部 講演会は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門 安井明美先生をお招

きし「日本食品標準成分表2015年版（七訂）－改訂の要点と今後の課題－」についてご講演いただきました。食品成分に関する最新情報や今後の取り組みなど、大変貴重なお話を伺うことができました。第二部 総会は、平成二十八年度経過報告として、活動状況、維持費収支決算ならびに会計監査、戸板女子短期大学の現状などを報告し、平成二十九年度行事計画、今後の活動・運営方針などについて審議いたしました。

## 【管理栄養士国家試験対策講座】

第十九回管理栄養士国家試験対策講座は、七月から十二月の土・日または祝日に各二科目ずつ五回シリーズで計十科目開講しました。二十六年度より食物栄養科主催、戸板栄養士会共催となつております。講師には、前学長の辻啓介先生をはじめ本学に縁の深い先生方、現教員の方々にご担当いただきました。

第三十回管理栄養士国家試験合格者は一名でした。合格された皆様には、心よりお祝いを申しあげます。平成十七年度より個人情報保護法の施行により合格者の個人名は発表されおりません。めでたく合格された方々には、是非戸板栄養士会までご一報いただけると嬉しいです。また、今後受験を予定されている皆様には、母校での対策講座のご参加を心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 【その他】

勤務先・住所・氏名の変更などは必ずご連絡をお願いいたします。また、新しく栄養士業務に就かれた方も会員として登録いたしますので、左記までお知らせください。

〒105-0014

東京都港区芝二丁目十一十七  
戸板女子短期大学 戸板栄養士会

電話 ○三一三四五二一四一六一  
FAX ○三一三四五一一九一八

Eメール eiyoshi@toita.ac.jp  
ホームページ <http://www.toita.ac.jp/eiyoshi/>

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

戸板栄養士会事務局 西山 良子

## 千草会 支部紹介

支部名	支部長	卒業回数	支部総会
群馬県支部 (連絡先)事務局	北爪 隆江(原田)	生活科 15回	毎年開催
	近藤二三枝(武)	生活科 19回	
栃木県支部	直井 和子(関根)	生活科 18回	2年毎開催
	飯島八壽子(成田)	英文科 22回	
静岡県支部			
宮崎県支部	江藤 博子(佐藤)	生活科 18回	3年毎開催
	中島 富子(宗)	生活科 18回	
福島県支部		休会	
北海道支部	大平 清美(山下)	生活科 16回	3年毎開催
北部九州支部	川添 敬子(大塚)	被服科 15回	2年毎開催
	中村 生子(渡辺)	生活科 14回	

連絡をお取りになりたい方は、同窓会事務室までご一報ください。  
戸板女子短期大学  
同窓会事務室  
電話/FAX  
03-3452-4169 (直通)

# 学園だより

# インターナシップ

any famでの  
インター<sup>ン</sup>シッ<sup>プ</sup>体験

朋飮芸術科一年 富権 真帆

販売

樂し

私がお客様として見ていて販売員のイメージは「洋服に囲まれて、楽しそうに話していく、樂そう」と思っていました。しかし、十一日間のインバーンシップで、そのイメージが大きく変わりました。一日目は「オングロード桜山」の会社の一室で、社員全員で、我々各の好きな

連一室流れ、参加者が全員で、参加者の基準で、接客の基準で、参加者同士で、ロールプレイングをやつてみて、なんとかなく感覚をつかむことができました。二週間目に入る頃には、この経験を活かしてたくさん接客しようと思いました。

お客様がいるフロアに初めて立った時、お声がけのタイミングがわからなく、なんと声をかけてお話ししたら販売にながるのかいろいろ考えてしまい、接客に慣れるのに時間がかかりました。

接客で一番大切なことは、笑顔と心配りだと感じました。購入後に「ありがと」という言葉をかけてくださった時の幸せは、接客をしないと経験できないとと思いました。

接客とは、お客様に満足なお買物をしていただくためには、まずは自分の生活を充実させて、豊かな感性をもつて、いかにニーズに合った商品を提案し、楽しむことに大きく関わることだと思います。それは簡単なことではなく、豊かな人間性や知識が必要だと強く感じました。

### 明治記念館での インターンシップ

服飾藝術科一年

林衣

記念

二九

小学校実習を終えて

食物栄養科二年

真樹

私は母校である「さいたま市立田島小学校」へ八月二十九日(月)から九月六日(火)までの土日を除いた七日間の学外実習を行つてきました。

# 一保育園での学外実習を終えて

食物栄養科一年上澤

私は夏休みに「青砥福祉保健園」で五日間の実習をさせていただきました。実習の事前準備、オリエンテーションなどを通して、実習を楽しみにしている気持ちがある反面、実際の現場で仕事をするとの不安が入り混じっていました。しかし、栄養士の方や調理員の方が親切に指導をしてくださったので、充実した五日間になりました。

実習では、切り物、洗浄、盛りつけおやつ作りなど、数多くの体験をさせていただきました。切り物では、大きななれいルに入っているにんじんを、細切りにすることから始めました。野菜の大きさも調理員の方がお手本を見せてくださいり、子どもが食べやすい大きさを把握して切ることができました。にんじんの細切りの長さが、いつも自分が食べていて長さより短かったことが印象的でした。

## 一高齢者福祉施設実習を終えて

食物栄養科二年 西尾 優真

守別養護老人ホーム なぎ正吉

物や調理、また学校栄養士の大変な業務内容を知ることができました。また、忙しい現場を経験したことによって、自分がどのように行動すれば、より効率的に調理ができるかを考える力が身についたと思いました。実習を通して経験したことや学んだことを活かし、これからも自身を磨いていきたいと思います。

苑」で、六日間の学外実習をさせていただきました。だきました。就職先が福祉施設ということもあり、どの様な経験ができるだろうかという期待と、利用者様やスタッフの方々とうまく接することができるだろうかという不安を持ちながら実習当日を迎えた。施設の厨房内は学校とは全く違

助をしました。各クラスへの配缶補助なども行いました。昼食は毎日違ったクラスで児童達と一緒に食べ、午後は授業見

初日は何をしたらよいかわからず戸惑いましたが、日数を重ねるごとに自分がやらやれることが増え、やりがいを感じました。

五日間の実習は、毎日が充実していくことが言われるのを待つのではなく、自分でできるのを探し、行動することの大切さを学びました。他にも、数多くの貴重な体験をすることができたよかったです。

私は保育園の栄養士として内定していますが、保育園実習を体験して、保育園の栄養士になりたいという思いが一層強くなりました。離乳食やアレルギー対応についてなど、実習で学んだことを現実で活かしていきたいです。

た。この実習で利用者様に合った食事療法の提案・指導ができるようになりたいという明確な目標ができたので、今後さらに多くのことを学んでいきたいと強く思いました。

## 病院学外実習を終えて

食物栄養科二年 久村 遥香

私は夏休みに「東京慈恵会医科大学付属病院」の本院で、土日を除く十日間の実習を行いました。私が病院を希望した理由は、メディカルサービスに興味があり、実際に自分で体験する事で、病院栄養士について学びたいと考えたからです。

実習中、指導してくださる管理栄養士の方は毎日違い、指導の仕方もそれぞれ強になりました。たくさんの方と関わる事ができ、勉強になりました。私は夏休みに「東京慈恵会医科大学付属病院」の本院で、土日を除く十日間の実習を行いました。私が病院を希望した理由は、メディカルサービスに興味があり、実際に自分で体験する事で、病院栄養士について学びたいと考えたからです。

二つ目は、宴会や婚礼などのお料理を運ぶ作業です。盛りつけられたお料理を気にしないがら重たいお皿を運ばなくてはならないことやタイミングを取るのが難しかったです。

三つ目は、笑顔を保つことです。宴会や婚礼の席では予想以上に長時間立つことになり、普段履きになれないヒールの靴を履いているのでどうしても足が疲れてしまうことがあります。その時に真顔になつていても足が疲れていたり、笑顔を保ち、感じ良く応対しなければならないところが厳しい仕事だと思いました。

一か月間でホテルの仕事の大変さを身にしみて感じましたが、経験してみなければ分からなかつたことが多く、この経験を活かしながら将来の職業選択に繋げていきたいと思っています。

## 文部科学省のインターンシップに参加して

国際コミュニケーション学科一年 吉野 菜摘

私は文部科学省夏期インターンシップに参加し、八月中旬より一週間総務課広報室において研修をさせていただきました。この実習で得たものをこれから身を以って学びました。今回の実習を通じて、たくさんの大切な事を感じきました。管理栄養士の立場や必要性・仕事のやりがい、自分が社会人として働く大変さなどを学び、更に興味を持つようになりました。今後も努力をし、成長していくないと感じた実習も忘れず、活かしていきたいです。

## インターんシップに参加して

国際コミュニケーション学科一年 小松原 帆保

私は今回「ホテルアジュール竹芝」でインターんシップをさせていただきました。中学生の頃から将来ホテルで働きたい

いという夢を抱いていたのですが、ホテルの仕事をつけてはよくわかつていなかつたので、実際にインターんシップに参加して、仕事を理解したいと思いました。実習期間は約一ヶ月間で、夏休み中に行いました。

具体的な実習内容は、婚礼・宴会・会食の準備・後片づけです。この実習を進めいく上で大変だったことが三つあります。一つ目は、専門知識がなかったので指示をされてもすぐに対応できなかつたことです。クープ皿を取つてくるように指示されても、それがどのようなお皿なのか分からず用意するのに時間がかかってしまつて大変でした。

二つ目は、宴会や婚礼などのお料理を運ぶ作業です。盛りつけられたお料理を気にしないがら重たいお皿を運ばなくてはならないことやタイミングを取るのが難しかったです。

三つ目は、笑顔を保つことです。宴会や婚礼の席では予想以上に長時間立つことになり、普段履きになれないヒールの靴を履いているのでどうしても足が疲れてしまうことがあります。その時に真顔になつていても足が疲れていたり、笑顔を保ち、感じ良く応対しなければならないところが厳しい仕事だと思いました。

一か月間でホテルの仕事の大変さを身にしみて感じましたが、経験してみなければ分からなかつたことが多く、この経験を活かしながら将来の職業選択に繋げていきたいと思っています。

この二週間で多くの貴重な体験をさせました。実習で学んだこと、また自分に欠けていた部分や伸ばす所を見つける良い機会になりました。このインターんシップに参加したこと

## 平成28年度 食物栄養科 オフキャンパス

● 食育ゼミナール	● 食育ゼミナール
(大塚ゼミ)	(大塚ゼミ)
9月14日..「東京大学総合研究博物館、健康と医学の博物館」見学	9月10日..「三田いきいきプラザ」8月のスイーツレシピ考案販売
(増野ゼミ)	9月3.13日..「浦安市立弁天保育園にて食育
7月10日..「アレルギーベーシックプログライム」勉強会参加 (於 千葉大学医学部)	9月10日..「神明いきいきプラザ」神明フェスティバル参加
11月12日..研修「企業の食育アレルギーの取り組みを学ぶ」 (石井食品 八千代工場見学)	10月24日..「虎ノ門いきいきプラザ」ハロウインランチメニュー
(井部ゼミ)	11月19日..「やちよ村(株)青トマトジャムレシピ提供、KITTEにて販売
5月23日..「芝地区養蜂事業検討」プロジ エクトチーム「芝BeeBee's」参加	※6月17日..「ふれ愛まつり」芝地区!の売上金(井部ゼミ、西山・北村ゼミ)を港区役所に届け熊本地震義援金とした
6月4日..「ふれ愛まつり」芝地区! 参加	6月11日..「第1回地市場内外散策」
8月5日..「近所ラボ新橋」食育ワークショップ実施	8月4日..「食育演習「合羽橋道具街」散
9月14日..「芝の家」食育ワークショッ クショップ」実施	5月21日..「食育演習「合羽橋道具街」散
10月15日..「港区出前授業」港区芝小学 校	9月2日..「食育演習「東京都卸売市場」見学
(川嶋ゼミ)	6月11日..「食育演習「東京都卸売市場」見学
7月14日..「はらべこDINING」新規お弁当宅配事業のレシピ提供「食育クイズ」クーポン券のデータ提供	8月4日..「食育演習「冷凍食品協会による冷凍食品講座」
11月24日..「シェフからハーブ料理を学ぶ」(芝ルガゾン)	9月24日..「食育演習「自衛隊市ヶ谷駐屯地」見学
(西山・北村ゼミ)	10月8日..「食育演習「ミソノ刃物による牡丹」にて試食会
6月4日..「ふれ愛まつりだ、芝地区!」 出店 食育活動の展示	11月13日..「食育演習「東京都食育フェア」見学
6月7日..「やちよ村(株)十六夜バラ農園」訪問	12月18日..「食育演習「S&B食品によるオリジナルスパイスカレー講座」
7月17日..「三田いきいきプラザ」夏祭り参加	12月26日..「食育演習「東京都中央卸売市場」食肉市場」見学



# 永眠者



村上アイ子

中等教員養成科 51回

谷本 キヨ (佐藤)

高等師範科 15回

稲田 瞳子 (白倉)

高等師範科 22回

服部 キミ

高等師範科 26回

門脇 信子

高等師範科 28回

阿部 サチ (庄司)

高等師範科 28回

飯田 静江 (名瀬)

高等師範科 34回

斎藤登喜子 (畠山)

高等師範科 34回

戸塚 信子 (清島)

被服科 7回

坂東 禮子 (高森)

被服科 9回

佐藤 信子 (佐藤)

被服科 12回

二宮まゆみ (菊地)

被服科 21回

車田 慶子

被服科 29回

外川 里美

被服科 30回

杉山夕夏里

被服科 46回

古川 仁子 (今野)

生活科 11回

今別府久恵 (若狭)

生活科 12回

松島美奈子

生活科 36回

心よりご冥福をお祈り申しあげます。

## 編・集・後・記

- 冬来たりなば 春遠からじ、とか、梅花が可憐に咲いて桜花の便りも聞こえる様です。
- 正会員になられた皆様、ご卒業おめでとうござります。世界情勢は流動的かつ不透明。皆さんの行く手は厳しく、多難な船出になりますが、舵取りを間違えないように自分の進むべき道を歩んでください。皆様のご活躍とご健康を祈念いたします。
- 昨年より新たに学長になられた小林千春先生は、これからの戸板の方向性についていろいろお書きくださっております。今年で一五年となる本学の更なる発展を願っております。
- 朝月真次郎先生がファッショニの道に進まれた経緯、また「ココ・シャネル」に魅かれ、長年ファッショニ業界でご活躍されていたことをお書きくださいました。学生のことを良くお考えくださっていること、学生は幸せです。
- 大塚譲先生、中村屋のパン・カレーは然る事ながら、芸術・文化の話、素敵です。彫刻家荻原守衛の跪く女性像に深い理由があり、今まさに立ち上がりうとする姿と知り感銘を受けました。
- 山口不些子先生は、本学とご縁が深い方で勉強家・努力家です。卒業生であることに誇りを感じます。
- 「三田界限」はいよいよ長編ものになりました。「紅葉館」のことを探り、懐かしく思う卒業生もいると思います。東京タワーの建つ芝公園が、文明開化の舞台になつていたとは、正に今昔物語そのものです。
- 人物紹介お三方の卒業後の人生は素晴らしいです。自分の進むべき道を切り開き活躍しておいでのお姿に脱帽です。人生を常に強い志と柔軟な発想を持つて挑戦していらっしゃることがパワフルな活動の源だと思います。
- 人物紹介お三方の卒業後的人生は素晴らしいです。自分の進むべき道を切り開き活躍しておいでのお姿に脱帽です。人生を常に強い志と柔軟な発想を持つて挑戦していらっしゃることがパワフルな活動の源だと思います。
- お便りコーナーの皆様、ご寄稿ありがとうございます。皆様それぞれの場所で一生懸命活躍されている様子が伺われます。
- 将來を見据えてのインターネット・ショップは、学ぶことが多く、社会に出てとき必ずその経験が活かされると確信します。
- 六月十八日(日)は第三十五回同窓会千草会総会が開催されます。皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。お待ちしています。
- 昨年もフランス・イタリアと世界各地でテロが発生、多くの人命が失われました。難民の一時受け入れを禁止したアメリカ。その余波が様々な形で報道されています。価値観が変わり、世界がだんだん分断されていくようを感じます。宗教・貧困・自国第一主義などなど原因はいろいろあります、お互いをもっと尊重して認め助け合い、共生共栄してこそ、道が開けるのではないでしょうか。世界の平和を願うばかりです。

# 卒業生や企業との『つながり』が戸板の新たな学びに!!

同窓会千草会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申しあげます。  
教職員一同、「魅力ある戸板女子短期大学」づくりに取り組んでいます。

## 食物栄養科 井部ゼミ 特定保健指導を見学

「食物栄養科 井部ゼミ」の2年生が、管理栄養士として活躍されている本学卒業生 徳久尚子さん（生43回）の特定健診・特定保健指導の現場を見学しました。



## 服飾芸術科 アパレル WEGO オープンキャンパス

人気のアパレルブランド「WEGO」とコラボレートしたオープンキャンパスを企画しました。本学卒業生でWEGO広報プレス富田紗耶さん（服11回）をゲストにプレスの仕事に関するトークショーや在学生によるファッションショーを行いました。



## 食物栄養科 西山ゼミ「青トマトのジャム」レシピ協力

「食物栄養科 西山ゼミ」の2年生が、やちよ村株式会社の「青トマトのジャム」の商品レシピに協力しました。11~12月には、丸の内KITTEビル内の「chiba I-CHI-BA」のブース（現在はイベント終了）や東葉高速勝田台駅・八千代緑が丘駅で販売しています。今後、西山ゼミでは、やちよ村株式会社と「十六夜薔薇ジャム」や「薬膳漬物」などを商品開発していく予定です。



## 国際コミュニケーション学科 ANA総合研究所による羽田空港見学

国際コミュニケーション学科のエアライン業界を志望する1年生約20名が、株式会社ANA総合研究所との産学連携授業の一環で、全日本空輸株式会社本社と羽田空港を見学しました。見学会を通して、空港の仕事の奥深さや、常にお客様のことを考えた仕事の仕方、また何より安全運航に向けて全員が様々な知識を使って一丸となっているプロの姿を見ることが出来ました。



## 総合教養 白州とりはらボランティア体験

日常は都会で学ぶ戸板女子短期大学学生の「知的好奇心」を山梨県北杜市白州町鳥原で掘り起こし、地域支援に携わることで、「新たなつながり」「心地よい居場所」を実感し、新たな自分に気づくプログラム「白州とりはらボランティア体験」を実施しました。大自然の中で、地元の農家の方と一緒に白菜の収穫や干しイモづくりなど「土」に触れ合った体験でした。



## ご卒業の皆様、在学生応援のために企業連携やOG訪問にご協力ください

企業連携やOG訪問にご協力頂ける方はお気軽に下記までご連絡ください。

### ●お問合せ・お申し込み

短大事務局

TEL03-3452-4161(代表)

入試・広報部

TEL03-3451-8383(直通) 金井・瀧谷

E-mail ao@toita.ac.jp

『ちぐさ』第61号

編 集 ちぐさ編集委員会

発 行 日 平成29年3月10日

発 行 者 東京都港区芝2-21-17

戸板女子短期大学同窓会

千草会

TEL 03-3452-4169 (直)  
FAX

ホームページ

<http://www.toita.ac.jp/>

制作 エックスデザイン株式会社

# CHIGUSA

